

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立四条中学校

5月に中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の本校の結果と状況がまとまりました。今年度は、国語・数学の2教科のテストと家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（生徒質問紙）が実施されました。生活習慣と学力との関係や学習状況など本校の子ども達の状況をお知らせいたします。

【国語科より】

全体および、すべての領域・評価の観点・問題の形式において全国平均を上回る結果となりました。

① 本校生徒の強みとその要因の考察

- ・書く力・・・語句プリントなどで、短文を作り、授業の課題として読み取ったことを書きなさい、読んで考えたことを書きなさいなどの課題を授業で設定している。このことが、生徒の書くことへの抵抗感をなくし、正答率の向上と無回答の減少につながったのではないかと考える。（書くことの領域の問題の無回答は少なく、質問紙からも文章を書く問題に対して「書くことができた」、「書く努力をした」という回答も多かった。）

② 本校生徒の弱みとその要因の考察

- ・読む力・・・今回出題されていたものは文約における語句の意味を理解する、登場人物の言動の意味を考え内容を理解する、場面の展開登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解するなどの趣旨のものであるが、平均よりは高いものの読む力に課題がある。授業でも、登場人物の言動とそこから考えられる心情に乖離があり、文章を展開に即して読み進められていないところや語彙不足からくる表現不足や理解不足があるのではないかという見方がある。授業の中で生徒の弱みを伸ばす授業の課題設定や手立てに課題があると考ええる。

③ 弱みを教化するために今後必要な学習指導

- ・生徒の学習状況や力を的確に見取り、読む、書く、聞く・話すのそれぞれの領域で思考判断、知識技能の課題を見つけて、それを伸ばす学習課題を設定する。

④ 生徒質問紙から見とることができる生徒の様子

- ・国語が好きだと回答する生徒、大切だと回答する生徒、よくわかる、将来役に立つと考える生徒が京都府・全国よりも少ない。
- ・国語の授業の進め方や学習活動に対する質問では、そういった学習をしていると実感している生徒の方が、京都府や全国よりも多い。

この二つのことから、学習に前向きに取り組んでいるが、学習の意義や目的を感じるものが少なく、興味関心も薄いのではないかと考える。

【数学科より】

全体および、すべての領域・評価の観点・問題の形式において全国平均を上回る結果となりました。

① 本校生徒の強みとその要因の考察

- ・数学的な技能及び数量や図形などについての知識・理解に関わる問題は全て全国平均と京都府平均を超える結果であり、基礎的な力を持っていると考えられる。

② 本校生徒の弱みとその要因の考察

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉える問題と相対度数の必要性和意味を理解する問題が全国平均と京都府平均より低かった。数学の事象の特徴を的確に捉えることや、発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する力が足りていないとみられる。

③ 弱みを強化するために今後必要な学習指導

- ・成り立ちそうな事柄を予測したり、それを確かめたりすることを通して、考察の対象を明確に捉えることができるように普段から考える内容の問題を解く必要がある。

④ 生徒質問紙から見とることができる生徒の様子

- ・「問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか」に対し、書いていると答えた生徒が京都府平均より10ポイント以上高く答えている。また、説明する問いにどのように書いたかという問いに対しても、最後まで書こうと努力したという生徒が全国、京都府を上回っている。普段から答えのみでなく、解き方、考え方を意識していることが見とれる。

【生徒質問紙より】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる」と答えた生徒は、全国・京都府平均より7ポイント程度高く、充実した学校生活を送っているという自覚をもつ生徒が多いといえる。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問はいずれも全国・京都府平均よりも高く、人に対してのやさしさや思いやりを持っている生徒が多い結果がでている。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問はいずれも全国・京都府平均より若干低く、本校生徒は自己肯定感が低いと思われ、もっと成功体験を増やし自信をつけていく必要があると考える。一方、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」や「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問は、できているという生徒が全国・京都府平均より低いという結果であった。子どもたちの家での過ごし方や時間の使い方、子どもたちの意識に大きな課題があると考えられる。

以上、簡単ではありますが、令和3年度 全国学力学習状況調査の結果の報告とさせていただきます。今結果を受け、より確かな学力の向上に向け、学校での指導を改善していきます。ご家庭におかれましても、子どもたちの健やかな育ちのため、お子たちへの励ましやお声掛けを今後ともよろしくお願いいたします。